

訃報

燦歩会員 植木彰さんは、12月10日亡くなりました。
昨年1月の「住吉大社初詣」の際は、大社のお膝元の育ちである事など、楽しく話しておられた事が、心に残っています。残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

カムカムエヴリバディと燦歩会

朝の連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」を見ていて、既視感にとらわれていました。それがはっきりしたのは、12月3日(金)放送のこのシーンです。大阪で細々と暮らしていた安子が怪我をして、止むを得ず岡山に帰ります。勇に連れられ、るいと共に、雉真の家に戻った所です。歴史を感じさせる、豪壮な玄関です。



そして、翌週6日(月)、逆方向からのこの画像で、さらにハッキリしました。

なんと、私たち燦歩会は、この家を訪れていたのです。2020年2月23日(日)の事でした。今から思えば、コロナが蔓延しつつあるものの、地方にはまだ多少の長閑さの残っている、まさにその頃でした。

その後、例会は半年以上休止する事になります。



左の写真は、燦歩会のその時の情景です。私たちは、右奥の案内板の前で、説明を聴いています。場所は大阪府富田林市中心部に残る、「旧杉山家住宅」(国指定重要文化財)です。この門の両側に「なまこ壁」を建てれば、まさに雉真邸になりますね。特に右奥のなまこ壁は、私たちの見ていた案内板を巧みに隠しています。

江戸時代、河内の国富田林（とんだばやし）の町は、浄土真宗富田林御坊（ごぼう）（興正寺別院）を中心とした寺内町（じないまち）として、大いに栄えました。

杉山家は町の開設当初の8人の名主「富田林八人衆」の一人で、江戸時代を通じて町政に関わって来た旧家です。17世紀半ばから酒造業を営み、河内の酒造業の中心的な役割を果たしてきたそうです。



かまどの大きさからも、家業の盛んな様子が知られます。盛時にはこの何倍ものかまどがあったとか。伝統的な農家風の建物ですが、一方で豪華な座敷、書院、茶室も備え、またラセン階段など、モダンな意匠も取り入れられて、心地よい住宅になっていました。

それと、この杉山家からは、文筆家の石上露子（杉山孝（たか））が世に出ています。21歳の時、与謝野鉄幹が主宰する新詩社の社友となり、「明星」に短歌を寄稿します。写真を見ると、いかにも深窓の佳人という佇まいですね。与謝野晶子、山川登美子たちと並んで「新詩社の五才女」と呼ばれたのだそうです。ただ結婚で、文筆活動に夫の理解を得られず、新詩社を退社させられ、不本意ながら断筆する事になります。活動の期間はごく短かったものの、古典の教養をもとに、華麗さの中に深い憂いを漂わせた作風で評価されるなど、富田林にしながら明治期の中央歌壇で注目を集めた。と評されています。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在40名です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。

今後の予定 1月 第1回例会の北・山の辺の道(白毫寺)を再訪する (奈良)
2月 燦歩会500回記念行事 浪花文学散歩 (大阪)
3月 おこしやす 京の五花街を巡る 続編 (京都)

参加ご希望の方は、会務担当 山村恵一にご連絡下さい。

(電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp)

と一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(写真・文 生島 幸弥)